

二宮町総合戦略策定

二宮町総合戦略

骨子（案）

平成 27 年 10 月 19 日

基本的な考え方.....3

1. 総合戦略策定の趣旨3
2. 総合戦略の位置づけと策定の考え方3
3. 総合戦略に定める内容.....4
4. まち・ひと・しごと創生の実現に向けて4

基本目標 1 安心な暮らしを守り、住み続けられる地域をつくる5

1. 基本的方向.....5
2. 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）－事例－6

基本目標 2 二宮の強みを活かした新しい暮らしを提案し、発信する.8

1. 基本的方向.....8
2. 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）－事例－9

基本目標 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶え、子育てを楽しめる環境をつくる11

1. 基本的方向..... 11
2. 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）－事例－ 12

基本目標 4 二宮町で安心して働き、仕事をうみだしやすい環境をつくる14

1. 基本的方向..... 14
2. 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）－事例－ 15

基本的な考え方

1. 総合戦略策定の趣旨

日本は、平成 20 年（2008 年）を境に人口減少の時代へと突入し、今後も加速度的に少子高齢化・人口減少が進むと推計されています。この大きな課題に対し、国と地方が一体となって取り組むため、平成 26 年（2014 年）に「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、国では、2060 年に 1 億人程度の人口を確保する中長期展望を示す「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と、5 か年の政策目標・施策を示す「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定され、東京一極集中の是正、若い世代の結婚・子育ての希望の実現、地域の特性に即した課題解決などを目指すことが示されました。

二宮町でも、この町の特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生するため、「二宮町総合戦略」を策定します。

策定にあたっては、町の強みである豊かな自然や温暖な気候、歴史・文化などを活かしたまちづくりを進め、「住んで良かった」「住み続けたい」と思える施策展開を図っていきます。

また、子育て家庭の転入促進を図るため、子育てを楽しめる環境をつくとともに、町内経済を循環させる仕組みづくりに取り組むこととします。

2. 総合戦略の位置づけと策定の考え方

「二宮町総合戦略」は、まち・ひと・しごと創生法第 10 条に基づく 5 か年戦略（計画期間：平成 27 年度～31 年度）として策定しました。同時に策定を行った「二宮町人口ビジョン」の内容を踏まえ、二宮町の実情に応じた今後 5 か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策を示すとともに、現在策定中の「第 5 次二宮町総合計画中期基本計画」の内容との整合も図っています。

また、国及び県の総合戦略も踏まえた中長期的な視点を盛り込むほか、国が示す政策の 5 原則（自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視）に基づく施策を展開します。

3. 総合戦略に定める内容

【基本目標】（国の総合戦略の4つの政策分野を勘案）

二宮町人口ビジョンの内容を踏まえ、一定のまとまりの政策分野ごとに、本町の実情に応じた戦略の基本目標を以下のように設定します。

基本目標1：安心な暮らしを守り、住み続けられる地域をつくる

基本目標2：二宮の強みを活かした新しい暮らし方を提案し、発信する

基本目標3：若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶え、子育てを楽しめる環境をつくる

基本目標4：二宮町で安心して働き仕事をうみだしやすい環境をつくる

【講ずべき施策に関する基本的方向】

上記基本目標の達成に向け、推進すべき施策の基本的方向を示します。

【具体的な施策】

設定した4つの政策分野ごとに、実施する施策を示します。

【数値目標・重要業績評価指標（KPI）の設定】

設定した基本目標における数値目標のほか、各施策の進捗状況を検証するための重要業績評価指標（KPI）などを設定します。

4. まち・ひと・しごと創生の実現に向けて

二宮町では、「二宮町総合戦略」の策定及び推進にあたり、「二宮町総合戦略推進本部」を設置し全庁的な取り組みを進めるとともに、「二宮町総合戦略検討委員会」を設置し、広く有識者や町民等からの意見を聴取しながら検討を進めてきました。

また、前述の通り現在策定中の「第5次二宮町総合計画中期基本計画」との整合を図りながら施策を推進し、「二宮町総合戦略」の効果の検証にあたっては、継続的な改善を推進するためのPDCAサイクルによる、必要に応じた施策の見直しや戦略の改定を行っていきます。

基本目標 1 安心なくらしを守り、住み続けられる地域をつくる

1. 基本的方向

- ・二宮町は、1960年代に住宅地が開発され、首都圏のベッドタウンとして発展してきた歴史を持ち、宅地開発により転入した住民が地域に溶け込んで、歴史・文化を育んでいる。
- ・大きな雇用を産む産業や、著名な観光地を持たないこの町の最大の財産は人であり、人と人との繋がりであることを再確認し、そこから生まれる、「安心な・暮らしやすい・住みやすい・住み続けたい」地域づくりを、二宮町総合戦略の第1の基本目標とする。
- ・人口ビジョンを実現するためには、出生率の向上と子育て家庭の定住促進が不可欠になるが、安心な・暮らしやすい・住みやすい・住み続けたい地域とは、子育てがしやすい地域であるとともに、誰もが健康でいきいきと生活することができ、安心して住み続けられる地域であることも必要になる。
- ・1960年代に開発された住宅地では高齢化が進み、空き家・空き地が増えている。この総合戦略を機に、改めて地域コミュニティを見直し、子どもも大人も、誰もがいつでも気軽に地域との繋がりを持てるような取り組みや、多世代の交流を促進するとともに、地域の拠点作りや町民の生活を支える公共施設のマネジメント、消防防災・防犯のまちづくりを推進する。

2. 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）－事例－

（1）地域コミュニティの醸成支援

少子高齢化の進展・働き方の変化などから、地域活動の人材が不足し、地域コミュニティの維持が難しくなっている地域が出てきていることから、子育て世代や元気な高齢者など、全ての世代がコミュニティ活動に参加しやすい環境づくりを進める必要がある。

そこで、既存の公共施設や空き家、空き店舗などを活用し、地域コミュニティ活動の支援を行い、多世代間の交流が図れる地域交流拠点を創出するとともに、全ての町民が安心・安全に住み続けられるコミュニティを醸成する。

○重要業績評価指標（KPI）

- 地域コミュニティに対する町民の評価（加重平均）
- 地域交流拠点数

※県、国の主な取り組み事例

県(中間)	・自治会や町内会の抜本的な制度の見直しによるエリアマネジメント(今後検討)
-------	---------------------------------------

県(中間)：「神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略 中間とりまとめ(案)」に記載の取り組み

（2）誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり

高齢化の進展に伴い、高齢者の就労や活躍の場づくり、社会参加に向けた活動の支援について推進する必要がある。

高齢者が地域の中で豊かに暮らせる環境づくりを進めるとともに、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」を構築し、推進を図る。

また、町民の健康・体力増進を図るため、誰もが気軽に運動ができる環境づくりを進めるとともに、民間の力を活かした健康・体力づくり教室といった機会づくりを行う。

さらに、障がい者が住み慣れた地域でその人らしい生活が維持できるよう、地域社会の基盤づくりや生活支援、療育・教育・就労への支援、社会参加への支援を行う。

○重要業績評価指標（KPI）

- 新たに運動習慣ができた人の数
- 健康を重視している人の幸福度
- 健康づくりイベント等への参加者数

※県、国の主な取り組み事例

県(中間)	・医療、介護、生活支援などのサービスを身近に利用できる地域包括ケアシステムの構築や地域包括支援センターの支援
-------	--

(3) 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり

高度経済成長に伴い、昭和40年代に多くの公共施設を整備してきたが、現在では老朽化が進み、また、人口やその構成が変化していることから、公共施設のあり方について、見直す必要がある。

そこで、公共施設の再配置や統廃合などの総合的なマネジメントを実施し、施設の適正な配置と維持管理を推進するとともに、公共施設のオープンリノベーションや事業提案型公募などの可能性についても検討し、戦略的な有効利用を図る。

また、コンパクトな町域にコンパクトな市街地を形成している町の特徴を活かしたまちづくりを進めるため、計画的な土地利用の誘導を図り、誰もが移動手段を確保できるような、公共交通網の推進を図る。

○重要業績評価指標（KPI）

- 交通不便地域の解消
- 公共施設の施設総量（総床面積）

※県、国の主な取り組み事例

県(中間)	・都市機能の集約化や地域の新たな拠点づくりの推進 ・段差解消や幅広歩道の整備など、誰にでもやさしいバリアフリーのまちづくりを推進 ・幼老複合施設における異世代交流の推進(今後検討)
国(2015)	◎都市のコンパクト化と周辺等の交通ネットワーク形成に当たっての政策間連携の推進等

県(中間):「神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略 中間とりまとめ(案)」に記載の取り組み
国(2015):「まち・ひと・しごと創生基本方針 2015」に記載の主な取り組み事例

(4) 災害や犯罪に備える地域づくり

町民が安心して住み続けられる町にするためには、災害時でも安全性を確保できるまちづくりが重要となる。

大規模な震災をはじめ、台風による高波被害、ゲリラ豪雨による都市型水害などの災害に対応するため、町民と協力・連携した防災・減災まちづくりの推進を図るとともに、消防・救急活動体制の強化を図る。

また、地域による防犯体制の充実や交通安全対策など、安全・安心なまちづくりを推進し、全ての町民が危険や不安を感じる事のないような体制づくりに努める。

○重要業績評価指標（KPI）

- 防災行動計画の策定
- 治安の良さに対する町民の評価（加重平均）

※県、国の主な取り組み事例

国(2015)	◎地域運営組織の形成及び持続的な運営
---------	--------------------

基本目標 2 二宮の強みを活かした新しいくらしを提案し、発信する

1. 基本的方向

- ・二宮町は、歴史・文化に育まれた自然が豊かな町として、転入者からは一定の評価を得ているものの、知名度は決して高くない。しかし、都市近郊にあり、懐かしい田舎の風景と穏やかな気候・風土に包まれた環境で暮らす中で、町内で生活している人は「二宮町に住んで良かった」と実感している。
- ・また、将来を担う二宮町の若者については、その多くが進学・就職・結婚等を機に町外に転出せざるを得ない状況にある。二宮町で生まれ育った若者が「ふるさと二宮に住み続けたい、または戻ってきたい」と思ってもらえるよう、その環境づくりをすることが重要である。
- ・人口ビジョンを実現するためには町外への転出を抑制するとともに、子育て家庭を中心とした転入を促進することが求められる。
- ・より多くの人々に「住んで良し」の二宮町を実感してもらうため、子育て家庭をはじめ、町内外問わず幅広い人々に対し、二宮町の良さを活かした新しい暮らし方を提案・発信するとともに、定住希望者の希望を叶える環境をつくることを、二宮町総合戦略の第2の基本目標とする。
- ・そのため、二宮町の自然・教育・文化・芸術など特色のある取り組みを推進し、効果的なプロモーションを行う。
- ・定住促進のためには定住希望者のニーズに対応する住宅供給が求められる。しかしながら、コンパクトに形成された二宮町の市街地は大半が宅地化され、大規模な新規住宅供給は難しい状況にある。一方で、1960年代に開発された住宅地では高齢化が進み、空き家・空き地が増えている。二宮町への転入者の希望を叶えるため、既存ストックの有効活用などによる定住支援を行う。

2. 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）－事例－

（1）「家族×幸せ＝にのみや Style」の提案と発信

良好な自然環境や充実した子ども・子育てサービスなど二宮町の強みを最大限に活かし、快適に安心して子育てができる、新たなライフスタイルを「家族×幸せ＝にのみや Style」として町内外に向けて発信し、子育て世帯や、進学、就職などで町外に転出したUターン希望者の転入促進を図る。

また、既存住宅ストックの有効活用策として、空き家バンク制度を創設し、転入者などへの住宅提供に対する支援を行うとともに、親世代との同居・近居に対する支援を行う。

○重要業績評価指標（KPI）

- 二宮町の地域情報を得やすいと答える人の割合（町民／町外）
- 空き家バンクへの登録件数
- Uターン・Iターン特典制度利用件数

※県、国の主な取り組み事例

県(中間)	・地域の特色を生かしたまちづくりや空き家対策の推進 ・多世代が居住し、高齢者等が健康で安心して住み続けられる団地に再生する「健康団地」など、コミュニティ活性化に向けた取り組みの促進
国(2015)	◎空家対策特別措置法等に基づく地方公共団体への総合的な支援、中古住宅・リフォーム市場活性化 ◎「まちづくりプロフェッショナル人材」の育成・確保、リノベーションに係る専門人材の育成、ノウハウの普及

（2）二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり

町には多様な自然環境や歴史・文化などの地域資源が多数存在しており、その環境を暮らしの中に取り込み、自然、文化、住環境の魅力づくりを推進している。

この魅力を町内外を問わず多くの人々に実感してもらうため、町の自然や歴史・文化などに触れられ、体験できる機会づくりを進める。また、進学や就職などにより町外へ転出しても、将来、生まれ育った二宮町に戻って子育てしたいと思ってもらえるよう、子どもたちに対して二宮町の自然や歴史、文化に触れられる機会づくりを進める。

また、ホールや図書館などを兼ね備えた生涯学習センターラディアンは町の文化・芸術活動の拠点であることから、多様な世代が集まれる交流拠点・若者の居場所として、町内外への発信力を強化する。

○重要業績評価指標（KPI）

- ラディアン・図書館の来館者数
- 文化・芸術活動に対する転入者の評価（加重平均）
- 特定のイベント参加者数

※県、国の主な取り組み事例

県(中間)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界に向けて神奈川の文化の魅力を発信するため、市町村などと連携しながら地域の文化資源を生かしたマグカルの全県展開を図る。 ・地域の魅力を生かした個性的なライフスタイルを発信し、県内への移住を促進
国(2015)	◎官民連携によるエリア開発の促進、民主導のエリアマネジメント活動の推進、「まちの賑わい」づくりに資する包括的政策パッケージの策定・実施

(3) 特色ある学校教育による知力・体力の向上

児童生徒の健やかな成長と確かな学力の向上を図るため、特色ある学校づくりによる教育内容の向上と児童生徒の成長に寄り添ったきめ細かな支援を推進する。

また、良好な教育環境の充実として、小中一貫教育や地域人材との協働による「チーム学校」の体制構築、コミュニティスクールなどの新たな取り組みについて可能性の検討を行い、将来を見据えた学校のあり方を検討する。

○重要業績評価指標 (KPI)

- 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合
- 毎日運動をしている児童生徒の割合

※県、国の主な取り組み事例

国(2015)	◎学校を核とした地域力の強化
---------	----------------

(4) 二宮の自然環境を大切にす地域づくり

里山・里地・里川・里海といった自然環境は、人々の心を穏やかにし、子どもの健やかな成長を育む環境としても重要であることから、自然環境を町の財産として保全に努めるとともに、子育て環境としての利点・効果等について「家族×幸せ＝にのみやStyle」として広く情報発信を行う。

○重要業績評価指標 (KPI)

- 自然環境に対する転入者の評価 (加重平均)

基本目標 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶え、子育てを楽しめる環境をつくる

1. 基本的方向

- ・二宮町では、妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援を行うため、母子保健推進事業をはじめ、保育サービス拡充事業、放課後児童対策事業、中学校の完全給食制度や小児医療費助成制度の中学生までへの拡大といった二宮町独自のサービスにも取り組み、支援内容の拡充・強化を図ってきた。
- ・しかしながら、サービスの情報がサービスを必要とする子育て家庭に届かないという課題や、サービス内容が子育て家庭の多様なニーズにマッチしないなどの課題も明らかになってきている。
- ・人口ビジョンを実現するためには、出生率の向上が不可欠であるが、子育て家庭が抱える様々なニーズに対応するためには、行政サービスだけでは限界がある。父親の育児参加しやすい環境づくりや、民間サービスの導入促進、地域ぐるみでの見守り・支え合いなどを含め、様々な主体の連携・協力のもとで子育て家庭が安心して妊娠・出産・子育てできる環境を実現することを二宮町総合戦略の第3の目標とする。
- ・そのため、まずは子ども・子育てサービスに関する情報発信の強化や民間サービスを含めたサービスの更なる質の向上を目指すとともに、「安心な・暮らしやすい・住みやすい・住み続けたい」地域づくりを活かした、地域ぐるみでの見守り・支えあいの環境づくりを進める。
- ・また、子育て家庭が子育てしやすい環境を整えるため、子どもが安全に遊べる環境づくり、子育て家族が安心して外出できる環境づくりを行う。
- ・さらに、長時間労働の改善といった男性の働き方の見直しなどを啓発し、子育て中の親が仕事と生活の調和を図ることができ、かつ、多様な働き方を実現できる環境づくりを行う。

2. 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）－事例－

（1）子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり

子どもの健やかな成長と安心して子育てが出来る体制の実現のため、子育て世代包括支援センター（二宮版ネウボラ）を設置し、健康診査や健康相談・訪問指導等、妊娠、出産から、育児期を通じた切れ目のない支援の充実を図る。

また、食育の推進や学童期・思春期における保健対策や小児医療の充実を図り、子育てしやすい環境整備を行う。

さらに、コンパクトな町ならではの特徴を活かし、地域ぐるみで子育て支援体制を構築することで、すべての家庭が地域で安心して子育てできる環境整備を図る。

また、教育・保育サービスや放課後児童対策の充実を図るとともに、子育てに関する講座や相談など保護者がともに育ち育て合う環境の推進を図る。

○重要業績評価指標（KPI）

- 出産環境への評価
- 健診の受診率
- 子育て環境に対する町民の評価（加重平均）
- 待機児童数

※県、国の主な取り組み事例

県(中間)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性に応じた、妊娠から出産、子育て期にわたる切れ目のない支援 ・全県待機児童ゼロをめざす保育環境の整備やかながわ子育て応援パスポートなど子育てしやすい環境づくりの推進 ・保育サービスの基盤づくりや保育人材の確保・育成の取組みなどの子育て家庭のニーズに応じた子ども・子育て支援新制度の円滑な運用・企業内保育所の整備の促進による子育て支援及び雇用促進 ・第3子以降に着目した子育て負担軽減事業(今後検討) ・3世代近居の促進(今後検討)
国(2015)	<ul style="list-style-type: none"> ◎「子育て世代包括支援センター」の整備 ◎子ども・子育て支援の更なる充実

（2）子どもや子育て世代が安全に外出できる環境づくり

子どもたちを楽しく、安全で、安心して遊ばせることのできる場として、公園機能の計画的な整備・充実を図るとともに、身近な自然環境の活用により、子どもが自然に触れ、遊べる機会の創出を推進する。

また、公共施設や公共空間のバリアフリー化を推進し、子どもや子育て家庭が使いやすい安全に利用できる環境づくりを行う。

○重要業績評価指標（KPI）

- 公園に対する 20～40 代の町民の評価（加重平均）

(3) 子育てと仕事の両立の推進

子育て家庭が仕事と生活の調和と多様な働き方の実現を図るため、母親の就業継続・就業支援に取り組むとともに、長時間労働といった男性の働き方の改善などを目指して子育てと仕事を両立するための生活スタイルの提案を行い、家庭や企業に対する意識啓発活動に活かしていく。

さらに、個人の価値観やライフスタイルに合わせた働き方が選択できるよう、ワーク・ライフ・バランスの啓発を推進する。

○重要業績評価指標（KPI）

- 女性の就業率
- 父親の家事時間
- 役場職員の育児休業取得人数

※県、国の主な取り組み事例

県(中間)	<ul style="list-style-type: none">・再生可能エネルギー事業者が地域で資金調達等を行い、地域に資金を循環させる事業を支援・農林水産業への若者の新規参入や企業参入などを促進・新たな担い手への技術指導や経営相談などにより、就業後の定着、自立化や経営の発展に向けた支援・県内外から人を引きつける魅力ある商店街を創出するため、地域のブランド育成に取り組む商店街の掘り起こしや、商業人材の育成などに取り組むとともに、商店街をめぐる観光ツアーを展開する。
-------	--

基本目標 4 二宮町で安心して働き、仕事をうみだしやすい環境をつくる

1. 基本的方向

- ・首都圏のベッドタウンとして発展してきた歴史を持つ二宮町には、大きな雇用を生み出す産業が無いと、町民の多くは町外に職を求めている状況にある。しかしながら、高齢者や女性といった日中を二宮町で過ごす町民の中には身近な地域で働きたいと感じている人も少なくない。また、進学や就職等を機に町外に転出した若者についても、二宮町へのUターンを促進するためにも、二宮町に新たな雇用を生み出すことには大きな意義がある。
- ・二宮町が将来にわたって地域の活力を維持し、持続可能なまちづくりを展開するためには、町内に新たな産業と雇用を生み出し、ヒト・モノ・カネを循環させることによって、町内経済を好転させ、人々が安心して生活を営むことができるまちをつくることが求められている。
- ・人口ビジョンを実現するために、既存ストックの活用やきめ細やかな対応によって身近な地域で働きたい人々の希望を叶える起業・雇用環境をつくることで、「誰もが生涯現役」となれる環境をつくり、町民や定住希望者が安心して定住し、働ける環境をつくることを第4の基本目標とする。
- ・ベッドタウンである二宮町にとっては、日常生活に必要な小売業や医療・福祉サービスといった生活に密着した産業の集積が大きな課題である。そのため、既存産業に対する就業支援などを行うとともに、二宮町環境を活かした新しい産業の創出や空き家・空き店舗と創業希望者とのマッチング支援などを行うことによって店舗や企業等集積を促進する。また、コミュニティカフェなど、人と人との繋がりを重視した地域づくりを発展させた町民の取組を支援する。

2. 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）－事例－

（1）地域にしごとを生み出し、資金を循環させるしくみづくり

町内の産業の活性化を図るため、商工会などと連携し、起業支援を行うとともに、新たな取り組みとして、空き家や空き店舗などを活用した物件の斡旋支援（マッチング支援）など、起業しやすい環境づくりを推進する。

また、町の環境を活かした新たな産業として期待される再生可能エネルギーについては、エネルギー・温暖化対策に関する計画を策定し、産業化についての可能性を模索していく。

さらに、コミュニティカフェなど、人と人との繋がりを重視した地域づくりを発展させた町民の取組を支援する。

○重要業績評価指標（KPI）

- 町内起業人数

※県、国の主な取り組み事例

国(2015)	◎創業支援・起業教育
---------	------------

（2）身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出

生活に密着した産業の集積を図り、元気な高齢者や資格を持った女性などが身近な場所で働くことができるような支援体制や就職相談、就職コーディネーター制度の創設などきめ細やかな就業支援を推進する。

また、農業については、町の主要産業の1つであるが、後継者不足などにより人材不足の状況にある。そのため、就農希望者に対するコーディネート支援など総合的な支援体制の推進を図るとともに、特産物の普及などにより食の地産地消を進める。

○重要業績評価指標（KPI）

- 農業参入（法人・個人）増
- 介護従事者増
- 資格職の女性就業者数